

3年—Unit 3 単元名 How many? 数えてあそぼう

1. 単元目標

- ・日本と外国の数の数え方の違いから、多様な考え方があることに気付き、1 から 20 までの数の言い方や数の尋ね方に慣れ親しむ。(知識及び技能)
- ・数について尋ねたり答えたりして伝え合う。(思考力、判断力、表現力等)
- ・相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり答えたりしようとする。(学びに向かう力、人間性等)

2. 言語材料

- How many (apples)? (Ten) (apples). Yes. That's right. No. Sorry.
- many, 数(1~20), 身の回りの物 (counter, ball, pencil, eraser, ruler, crayon), 果物・野菜 (apple, strawberry, tomato), 形 (circle, triangle, cross, heart), stroke, yes, no, sorry, that, is, right
[既出] 挨拶・自己紹介, 状態・気持ち

3. 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
話すこと (やり取り)	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

4. 単元計画 (4時間)

時	目標 (◆) と主な活動 (【 】 , ○) 【 】 = 誌面化されている活動	◎評価の観点<方法>
1	◆1～10 の数の言い方に慣れ親しむ。 ○歌 Hello Song (Unit 2) ○身の回りの物の言い方を知る。 【Let's Play 2】 p.12 ・指導者とじゃんけんをする。No.1 (10回) ○ミッシング・ゲーム (1～10) 【Let's Sing】 Ten Steps p.10 ○歌 Goodbye Song (Unit 2)	◎1～10 の数を聞いたり言ったりしている。<行動観察・振り返りカード点検>
2	◆日本と外国の数の数え方の違いから、多様な考え方があることに気付いたり、1～20 の数の言い方に慣れ親しんだりする。 ○歌 Hello Song (Unit 2) 【Let's Sing】 Ten Steps p.10 【Let's Watch and Think】 p.12 ・どの国の数の言い方かを考えて、番号を□に書く。 ○指導者が持っている物やその数を当てる。 ○誌面にある身の回りの物の数を数える。○誌面の身の回りのものの数を数える。 【Let's Play 1】 おはじきゲーム p.10, 11 ○歌 Goodbye Song (Unit 2)	◎多様な考え方があることに気付いている。<行動観察・振り返りカード分析> ◎1～20 の数を聞いたり言ったりしている。<行動観察・振り返りカード点検>

3	<p>◆数を尋ねる表現に慣れ親しみ、数を尋ねたり答えたりして伝え合う。</p> <p>○歌 Hello Song (Unit 2) 【Let's Sing】 Ten Steps p.10 【Let's Play 2】 p.12 ・指導者とじゃんけんをする。No.2 (10回)</p> <p>○クラップ・ゲーム</p> <p>【Let's Play 3】 How many apples? クイズ p.13 【Activity 1】 p.13 ・りんごの数を尋ね合い、同じ数のりんごを持っている友達を見つける。</p> <p>○歌 Goodbye Song (Unit 2)</p>	<p>◎数を尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p> <p>◎数を尋ねたり答えたりして伝え合っている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>
4	<p>◆相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり答えたりしようとする。</p> <p>○指導者の話から最終の活動への見通しをもつ。</p> <p>○どの漢字かな。</p> <p>【Let's Chant】 How many? p.13 【Activity 2】 p.13 ・友達と好きな漢字を紹介し合う。</p> <p>○歌 Goodbye Song (Unit 2)</p>	<p>◎相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>

3年 Unit 3—Lesson 1 How many? 数えてあそぼう 1/4 時間

目 標 1～10の数の言い方に慣れ親しむ。

準 備 身の回りの物（鉛筆や消しゴムなど）、デジタル教材、児童用テキスト、教師用カード（身の回りの物）、教師用カード（1～10）、振り返りカード

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
2分	・挨拶をする。 I'm ~. How are you?	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
2分	○歌 Hello Song (Unit 2) ・ジェスチャーを付けるなどして歌う。	・児童と一緒に歌う。	デジタル教材
15分	○身の回りの物の言い方を知る。 ・指導者の後について言ったり、指導者の質問に答えたりして、身の回りの物の言い方を知る。 ・児童用テキスト p.10, 11 を開き、机の上にある物や数などを言う。その際、英語で言える物は言う。 <誌面に掲載されている物など> pencil, eraser, ruler, dice, block, apple, heart, ball, crayon, counter, clock, one ~ twelve, A ~ Z	・指導者はあらかじめポケットなどに鉛筆や消しゴム、サイコロなどを入れておき、それを触りながら What's this? と問いかけ、取り出して実物を見せながら、Oh, a pencil. などと言って紹介する。 ・また、児童の机の上にある物などをみんなに見せて Oh, an eraser. と紹介しながら、Everyone, an eraser? と持っているかを他の児童に尋ねる。(本来は、Do you have an eraser? と尋ねるところであるが、児童の実態に応じて、この場合は An eraser? としている。) ・このようなことを繰り返しながら、児童に身の回りの物の英語での言い方に会わせる。 ・児童用テキストを開かせ、What can you see? などと尋ね、誌面にある物や数などを発表させる。その際、児童が日本語で答えた場合は指導者が英語で返し、身の回りの物の言い方にさらに会わせるようにする。 How many apples? One? Two? などと数を尋ね、単元への見通しをもたせる。	身の回りの物（鉛筆や消しゴムなど） 児童用テキスト デジタル教材 教師用カード（身の回りの物）
10分	【Let's Play 2】 p.12 ・じゃんけんをしよう。No. 1 (10回) ・指導者や友達とじゃんけんをして、その結果を誌面の表に記入する。 ○ (勝ち), △ (あいこ), × (負け)	・じゃんけんを 10 回行った結果を記入させた後に、How many circles / triangles / crosses? と尋ねる。おそらく、指導者が How many ~? と尋ねる前に、児童は表に記入した○, △, ×の数を数え始めていると思われる。そこで、指導者が How many circles? などと尋ねることで、児童の意識と how many という表現が一致し、児童は how many という表現の意味を理解していくと思われる。このように、日本語で「○がいくつありますか」などと尋ねることなく、児童が場面や状況から英語の語句や表現の意味を類推しながら捉えられるようにすることが大切である。 ・表に記入した○, △, ×のそれぞれの数を数えさせたうえで、指導者は、One? Two? … と尋ね、児童に手を挙げさせる。何度も、one ~ ten の数の言い方を聞かせ、それらの言い方に会わせるようにする。その際に、教師用カードを黒板に掲示し、次の活動につなげる。	児童用テキスト デジタル教材 教師用カード (1～10)

6分	<p>○ミッシング・ゲーム（1～10）</p>	<p>・前活動で黒板に掲示した数字カードをさしながら、英語での数の言い方を児童と確認し、黒板に10枚の数字カードがあることを意識させたいので、活動に入るとよい。</p>	<p>教師用カード （1～10）</p>
<p>ミッシング・ゲームの進め方</p> <p>・指導者は、黒板に1～10の数字カードを掲示し、児童と数の言い方を確認する。全てのカードを外し、その中から1枚カードを除く。取り除いたカード以外のカードを再度黒板に掲示しながら、児童と一緒に言うように促す。最後に黒板にないカードの数字が何かを当てるゲーム。隠すカードは1～4枚程度（実態に応じて）。</p> <p>・黒板にカードを掲示したまま児童に目を閉じさせ、その間にカード1枚（順に数を増やす）を取り除き、児童に目を開けさせて、なくなったカードの数字を当てさせる方法もある。児童の実態に合わせて選択するとよい。</p>			
		<p>◎1～10の数を聞いたり言ったりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>	
3分	<p>【Let's Sing】 Ten Steps p.10</p> <p>・音楽に合わせて歌う。</p>	<p>・児童と一緒に歌う。</p> <p>・慣れてきたら、数を1つ選ばせ、その数は言わずに手を1回叩くなど、歌い方に変化を付けて意欲が持続するようにする。</p>	<p>デジタル教材 教師用カード （1～10）</p>
<p>One, two, three, four, five, six, seven. One, two, three, four, five, six, seven. Eight, nine, ten, eight, nine, ten. One, two, three, four, five, six, seven.</p> <p>Eleven, twelve, thirteen, fourteen, fifteen, sixteen, seventeen. Eleven, twelve, thirteen, fourteen, fifteen, sixteen, seventeen. Eighteen, nineteen, twenty, eighteen, nineteen, twenty. Eleven, twelve, thirteen, fourteen, fifteen, sixteen, seventeen.</p>			
5分	<p>・本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</p>	<p>・英語を使おうとする態度や本時のねらいについて児童のよかったところを称賛する。</p>	<p>振り返りカード</p>
2分	<p>○歌 Goodbye Song (Unit 2)</p> <p>・歌を歌い、挨拶をする。</p>	<p>・児童と一緒に歌い、挨拶をする。</p>	<p>デジタル教材</p>

8分	<p>○指導者が持っている物やその数を当てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の持つ箱や袋の中にある物や、その数を推測して答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ箱や袋の中に鉛筆やおはじきなどを入れておく。箱を振って音を聞かせたり袋を触らせたりして、中に入っている物やその数を児童に予想させた後、入っている鉛筆などを1つずつ取り出しながら児童と一緒に数え、前回に出会った身の回りの物の言い方を思い出させるようにする。 ・最初は、10個以下の物を扱うが、慣れてきたら11個以上の物を扱い児童と一緒に数え、11以上の数の言い方に自然に出会わせる。 ・身の回りの物を数える活動から、次の児童用テキストを使った活動につなげる。 	<p>箱や袋 鉛筆やおはじき 等の身の回りの物 1～20個</p>
8分	<p>○誌面にある身の回りの物の数を数える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材の画面や児童用テキスト誌面にある物の数を数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前活動の流れから、デジタル教材の画面を見せて How many balls? などと数を尋ね、その数を予想させたうえで、児童と一緒に数えながら、11以上の数の言い方に慣れさせるようにする。 ・まず、How many ~? と尋ね、デジタル教材あるいは児童用テキストを見せた後に、画面を隠したりテキストを閉じさせたりする。その後、数を予想させる。予想が合っているかを確認するために、再度デジタル教材あるいはテキスト誌面上で、児童と一緒に数える。 ・本活動を通して、何度も繰り返し音声を聞かせ、11以上の数の言い方に慣れさせるようにする。 	<p>デジタル教材 児童用テキスト</p>
8分	<p>【Let's Play 1】おはじきゲーム</p> <p>おはじきゲームの進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、自分の児童用テキスト誌面にある1～20の数字から5つ程度選び、その上におはじき（または、紙片など）を置く。（おはじきの数は活動形態によって調整する） ・指導者が無作為に数を言い、言った数の上におはじきがあれば、それを除いていく。 ・置いた5つのおはじきがなくなれば、あがりとなる。 <p>※1冊の児童用テキストを使って、ペアや4人グループなどで行ってもよい。（その場合は、誰のおはじきかが分かるようにすることが必要）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーションをして、進め方を理解させる。 <p>◎1～20の数を聞いたり言ったりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>	<p>児童用テキスト デジタル教材 おはじき（または紙片など）</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使おうとする態度や本時のねらいについて児童のよかったところを称賛する。 	<p>振り返りカード</p>
2分	<p>○歌 Goodbye Song (Unit 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌を歌い、挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に歌い、挨拶をする。 	<p>デジタル教材</p>

3年 Unit 3-Lesson 3 How many? 数えてあそぼう 3/4時間

目 標 数を尋ねる表現に慣れ親しみ、数を尋ねたり答えたりして伝え合う。

準 備 デジタル教材, 児童用テキスト, 教師用カード (1~20), タンバリンやカスタネット等, 色鉛筆, 振り返りカード

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
1分	・挨拶をする。 I'm ~. How are you?	・全体に挨拶をし, 個別に数名の児童に挨拶をする。	
4分	○歌 Hello Song (Unit 2) 【Let's Sing】 Ten Steps p.10	・児童と一緒に歌う。 One, two, three, four, five, six, seven. One, two, three, four, five, six, seven. Eight, nine, ten, eight, nine, ten. One, two, three, four, five, six, seven. Eleven, twelve, thirteen, fourteen, fifteen, sixteen, seventeen. Eleven, twelve, thirteen, fourteen, fifteen, sixteen, seventeen. Eighteen, nineteen, twenty, eighteen, nineteen, twenty. Eleven, twelve, thirteen, fourteen, fifteen, sixteen, seventeen.	デジタル教材 教師用カード (1~20)
8分	【Let's Play 2】 p.12 ・じゃんけんをしよう。No.2 (10回) ・指導者や友達とじゃんけんをして, その結果を誌面の表に記入する。 ・1回目 (第1時) の結果と合わせて数を数える。	・第1時の続きで 10 回じゃんけんをし, How many circles / triangles / crosses? と尋ねる。 ・第1時の結果と合わせて, One? Two? …と尋ね, 児童に手を挙げさせる。	児童用テキスト デジタル教材 教師用カード (1~20)
5分	○クラップ・ゲーム	・まずは一緒にやってみせながら, 児童に進め方を理解させるようにする。 ・活動を通して, 1~20の言い方を何度も聞いたり繰り返したりしてそれらの言い方に慣れ親しませるとともに, 数の尋ね方に慣れ親しませるようにする。	デジタル教材 タンバリンやカスタネット等
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>クラップ・ゲームの進め方</p> <p>・指導者がタンバリンやカスタネット等でリズムをとりながら, 児童に How many (times)? と尋ねさせ, 指導者は (Clap / Stomp) five times! などと数を答える。</p> <p>・児童は, その数の分だけペアどうしで数えながら手を叩いたり, 足踏みをしたりする。</p> </div>		
		◎数を尋ねたり答えたりしている。<行動観察・振り返りカード点検>	
6分	【Let's Play 3】 How many apples? クイズ p.13 ・画面に映し出される物を見て, その数を答える。 ① 1種類の物が複数ある。 ② 2~3種類のよく似た物がそれぞれ複数ある。	・児童の数えたいという意欲を高めるために, 画面を1~3秒間だけ見せた後に, 児童全員に数を予想させ, 再び画面を見せて全員で数を数えて確認するといった方法もある。児童の実態に応じて工夫するとよい。 ・りんご, トマト, イチゴと, 形状がよく似た物を扱っていることから, 児童によっては混乱することも考えられる。児童の実態によっては, ①のみにしてもよい。	児童用テキスト デジタル教材

14分	<p>【Activity 1】 p.13</p> <p>・りんごの数を尋ね合い、同じ数のりんごを持っている友達を見つける。</p>	<p>・児童用テキスト誌面のりんご20個のうち、好きな数だけ色を塗らせたうえで、教室内を歩いて How many apples? と尋ね合いながら、同じ数のりんごを持っている友達を見つけさせる。同じ数を選んだ友達を見つけたという達成感を、どの児童にも味わわせるために、実態に応じて次のような工夫をするとよい。</p> <p><例></p> <p>※10個は塗っておき、10～20個の範囲とする</p> <p>※1回目は1～10個、2回目は11～20個で行う など</p> <p>◎数を尋ねたり答えたりして伝え合っている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>	児童用テキスト デジタル教材 色鉛筆
5分	<p>・本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</p>	<p>・英語を使おうとする態度や本時のねらいについて児童のよかったところを称賛する。</p>	振り返りカード
2分	<p>○歌 Goodbye Song (Unit 2)</p> <p>・歌を歌い、挨拶をする。</p>	<p>・児童と一緒に歌い、挨拶をする。</p>	デジタル教材

3年 Unit 3-Lesson 4 How many? 数えてあそぼう 4/4 時間

目 標 相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり答えたりしようとする。

準 備 デジタル教材, 児童用テキスト, 教師用カード (1~20, 漢字を書いたカード), ワークシート (Unit 3-1, 3-2), 振り返りカード

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
1分	・挨拶をする。 I'm ~. How are you?	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。	
12分	○指導者の話から最終の活動への見通しをもつ。 ・指導者の示した漢字や自分の名字, 名前について画数を数える。 ○どの漢字かな。 ・漢字の画数を尋ねたり, 答えたりする。 ・指導者に画数を尋ね, どの漢字かを予想する。	・好きな漢字や指導者の名字や名前の中から選んだ漢字を見せようとして, How many strokes? One, two, three … などと指や教師用カードを示し, 漢字の画数を尋ねていることを理解させて答えを促す。 ・児童の名字や名前の画数についても尋ねるなどし, 最終活動への見通しをもたせる。 ・児童がこれまでに学習した漢字のうち, 同画の漢字を2つ3組 (6字) 程度選び, 黒板に書く。 (例) 2画: 人・力, 4画: 友・犬, 8画: 学・林 ・1人の代表児童に黒板に書かれた漢字から1つ選ばせ, 他の児童にはどの漢字を選んだかを予想させる。まずは指導者が How many strokes? と尋ね, その児童に答えさせる。代表児童を替えて数回繰り返し, 他の児童にも一緒に尋ねるよう促す。 ・児童が慣れてきたら, 漢字を増やし, 指導者が漢字を選び, 児童だけで How many strokes? と尋ねさせたり, 代表児童に児童だけで尋ねさせたりする。あるいは, ペアで行わせてもよい。	児童用テキスト デジタル教材 教師用カード (1~20, 漢字を書いたカード)
5分	【Let's Chant】 How many? p.13 ・音声に合わせてチャンツを言う。	・児童と一緒に言う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Balls, balls, how many balls? One, two, three, four, five balls! Strokes, strokes, how many strokes? One, two, three, four, five strokes. Oh, “本.” I see.</p> <p>Pencils, pencils, how many pencils? One, two, three, four, five pencils. Six, seven, eight, nine pencils! Wow! So many.</p> </div>	デジタル教材
20分	【Activity 2】 p.13 ・ワークシート (Unit 3-1) に好きな漢字や画数を書いて紹介シートを作り, 友達と好きな漢字を紹介し合う。 ・やり取りして分かった友達の好きな漢字をワークシート (Unit 3-2) に書く。	・デジタル教材を使用したり, 指導者がデモンストレーションしたりして, 児童に活動の見通しをもたせる。 ・1~13画程度の漢字の中で児童に好きなものを1つ選ばせ, その漢字と画数をワークシート (Unit 3-1) に, 選んだ理由をワークシート (Unit 3-2) に書かせる。 ・友達に画数を尋ね, 友達が選んだ漢字を予想したり, 答えを聞いて確かめたりさせる。 ・個に応じた支援を行うとともに, 相互理解の機会となるよう言葉かけをする。 ・途中で活動を止め, 前半で相手に伝わるよう工夫していたペアにやり取りを再現させ, 工夫している点を学	児童用テキスト デジタル教材 ワークシート (Unit 3-1, 3-2)

	<p>A: Hello! B: Hello! How many strokes? A: 7 (seven)! B: 「助」かな？ A: No. 花。I like 花。それは～。 B: I see. (Thank you.)</p>	<p>級全体で確認し、それらを生かしたやり取りを後半にさせるようにすることも考えられる。 ◎相手に伝わるように工夫しながら、数を尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>	
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り，振り返りカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使おうとする態度や本時のねらいについて児童のよかったところを称賛する。 	振り返りカード
2分	<p>○歌 Goodbye Song (Unit 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌を歌い，挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と一緒に歌い，挨拶をする。 	デジタル教材